

《 不安な個人、立ちすくむ国家 》

～ モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか ～

「経産省 若手プロジェクト」
(2017年5月公表)

モデル無き時代に対応できていない「リタイア世代の実態」に“警鐘”を鳴らした渾身のレポート。

「居場所のない定年後」 (対象者：現60代後半/70代前半)

- 定年や再雇用終了によって“職業寿命”が尽きると、社会から強制退場させられる。そして1年も経つと特段やることもなく、あんなに能力も意欲もあった人が日がなテレビを観て過ごす。こんな居場所のない定年後を描いていたのだろうか？
- 現在70代前半や60代後半の戦後生まれも「定年まで勤め上げ、あとは年金暮らし」という昭和の人生すごろくを踏襲した。『Live longer, Work longer』（「長く生きることは長く働くこと」が社会の法則に）という時代の潮流から取り残されてはいないか？

「望んだものと違う人生の終末」 (対象者：現70代後半～)

- “健康寿命” (男性72歳/女性75歳) が尽きると、MCI (軽度認知障害) /ロコモティブシンドローム (運動器症候群) や糖尿病など、要医療・要介助の状態になる。そして認知症/寝たきりや糖尿病合併症 (人工透析・失明・足の切断) になってしまう恐怖に付きまといわれる。こんな長くて辛い人生の終盤を想定していたのだろうか？

- リタイア世代の実態から学ぶべきことは、“職業寿命”と“健康寿命”という言葉が現れた背景を知らなかった—— そのために、「居場所のない定年後」とその後の「望んだものと違う人生の終末」という不本意な事態を自ら招いてしまった、ということである。

- 変化の時代では“無知/臆病/怠慢”が三重奏の原因となって、個人の人生&仕事人生を不本意なものや意味のないものにしてしまうと言われる。
- 逆から言えば、変化の時代の今は、『変化に伴って生じる“リスク”の実態を知って (無知の解消)、その対処法を考え、勇気を出して一歩踏み出し (臆病の解消)、正しい努力を続ける (怠慢の解消)』—— そうすれば『意味のある人生』を形成していけるということ。そのためにも、『時代を掴む』ことが何よりも重要となっている。



- 驚くことに、医者『生きる期間』は一般人よりも約10年短い。そもそも医者は「治療」の専門家であって、『予防』の専門家ではない。“医者の不養生”と言われるように医者自身が『養生＝予防』できていないのが現状——『病気を予め防ぐ』（セルフケアする）という健康戦略を私達自身で持つ必要がある。